

しゃらりん

09

2005/8



しゃらりん08号 (2005/4)

**大阪教区テーマが
「今、いのちがあなたを生きている」に**

目次

contents

教区テーマ・スローガン決定 …… 3

教区教化委員会メンバー …… 3

教区アラカルト

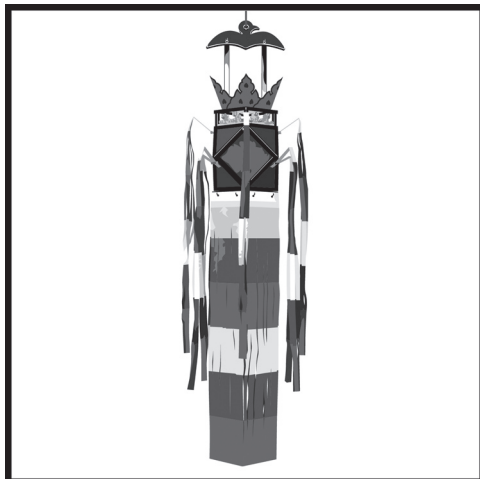
「遠松忌法要」 …… 4

プルタブを集めて車椅子を寄贈 …… 5

アトリエしゃらりん …… 7

ちょっといこか …… 8

しゃらりんちゃん …… 8



切籠【きりこ】

世俗にいう盆灯籠のこと。本山では、八角形の火袋を赤、紺の色紙にて張り、頭部に墨塗の雁形を付け、火袋の上方には「けづりかけ」の欄間を設け、紺赤の方立を四隅に立て、これに白、赤、紺の紙を三段二重、御影堂は三重についで裳を付け、火袋の角に八本の垂尾を下げて、余間に荘厳される。

以前は、盆会中の逮夜と日中の、御影堂本間の勤行に引続いて、南余間に座を移してなされる勤行を、切籠の勤行と称していた。

今、いのちがあなたを生きている

聞こう 親鸞聖人のことば 見つけよう ともに生きる喜び

今期の教区基本テーマにつきましては、教化委員会において検討・協議され、御遠忌にむけて一人ひとりの意識高揚を願い、また、親鸞聖人の門徒を名告る私ども一人ひとりが主体的に担っていく御遠忌といたすべく、ご本山が御遠忌テーマとして示された「今、いのちがあなたを生きている」といたしました。

そして、年度毎の主張を簡潔に言い表してきたスローガンにつきましては、「聞こう 親鸞聖人のことば 見つけよう ともに生きる喜び」といたしました。この言葉には、「一人ひとりの中心に据えているものは何か」、「どういう生きる姿勢を表現したいのか」、「こういふことを確認していく具体的な言葉として表現されたものです。

ただ、教区基本テーマにつきましては、このたびの御遠忌テーマを基底として教区独自のテーマを生み出していくことも、時期に応じて必要であるとの認識から、単年度（2005年度）のテーマとし、今後、更に論議を深めながら、発信していく方途を模索していくことも視野に入れております。

教化委員会名簿

【企画部会】（◎印は部長）

- 橋本匡子（3組引接寺）
- 田口タズ子（3組受念寺）
- 藤岡 照（5組林照寺）
- 尾崎廣三（5組圓照寺）
- ◎寺林 惇（6組來迎寺）
- 芝谷正昭（9組看景寺）
- 太田高顕（10組光善寺）
- 酒井 度（14組慶重寺）
- 大村迪男（14組真光寺）
- 廣瀬 俊（17組法觀寺）
- 松山正澄（19組正受寺）
- 高間重光（19組了信寺）
- 藤澤紹子（20組頓隨寺）
- 藤田恭樹（22組専念寺）
- 山村禎一（26組向陽寺）

各専門部会（◎印は幹事）

- 【儀式・法要部】
- 鷹合 真（3組覺林寺）
- 山内雅教（7組光明寺）
- 森川 徹（21組西慶寺）
- （兼）中島裕（21組善宗寺）

【研修・講座部】

- 井関 靖（10組慶徳寺）
- 宮部 渡（15組西稱寺）
- 池田康子（16組觀智坊）
- 四ツ井真知子（19組長因寺）
- 戸次公正（22組南溟寺）
- 成井暁信（26組西教寺）

【行事部】

- 内山宗之（3組西元寺）
- 本多 勉（6組南江寺）
- 大戸久見子（13組道徳寺）
- 藤井満紀（17組眞願寺）
- 中島 裕（21組善宗寺）
- 三好泰紹（22組蓮正寺）

【視聴覚伝道部】

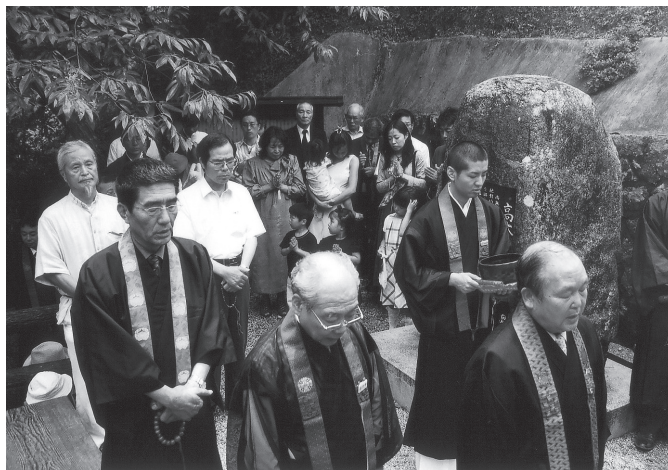
- 由上義孝（20組施福寺）
- 平野圭晋（27組願隨寺）

【ホームページ部】

- 難波明則（9組淨圓寺）
- 澤田 見（12組清澤寺）

遠松忌法要

高木顕明師けんみょうの復権と顕彰の願いを込め



← 高木顕明師顕彰碑にての勤行



→ 浄泉寺での法要

去る2005年6月18日、大阪教区第23組浄泉寺（山口範之住職・和歌山県新宮市）で、「遠松忌法要」（高木顕明師けんみょうの復権と顕彰の願いを込め）が、約100人の参詣のもと勤められました。

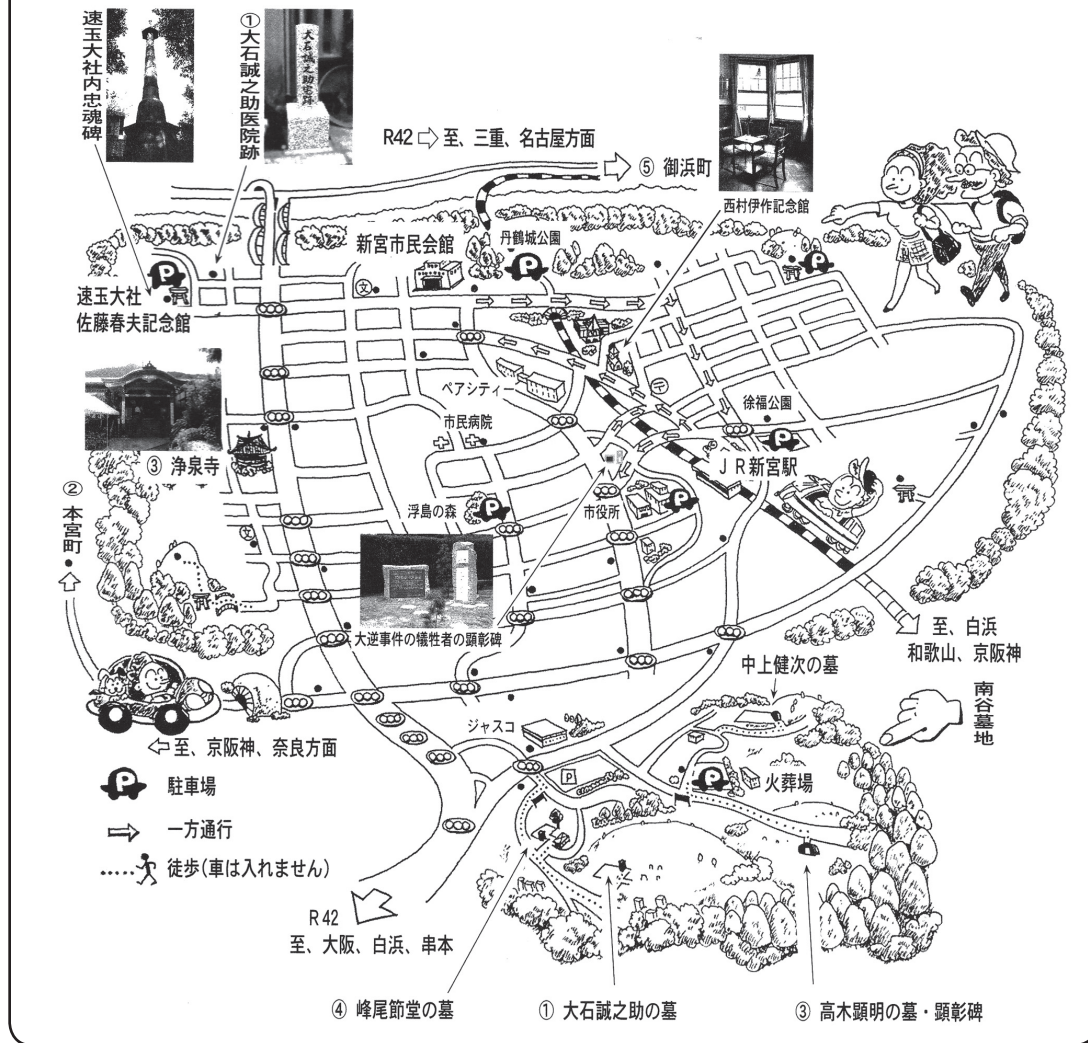
この法要は、真宗大谷派解放運動推進本部と大阪教区教化委員会、難波別院が連携し、宗派が主催して、毎年行われているものです。

6回目を迎えた今年は、「前を訪うー今、この時代に聞く非戦・平等の願いー」をテーマに開催されました。

当日は、まず新宮市の南谷墓地にある顕明師の顕彰碑前で、藤岡照・大阪教区会議長の導師のもと勤行が行われました。

その後、顕明師が住職を務めていた浄泉寺に会場を移し法要が営まれました

高木顕明師と生きた人々 新宮イラストマップ



法要は、高間重光氏(第19組了信寺住職)の司会で進められ、全員で「三帰依文」の唱和、続いて竹田恵示・解放運動推進本部長が表白を拝読し、山口住職調声のもと「正信偈・同朋奉讃式」にてお勤めされました。

お勤めの後、織田恭一氏(第4組願正寺住職)が、クラシック音楽の流れる中、顕明師の著した『余が社会主義』を朗読されました。

引き続き、片山寛隆氏(三重教区相願寺住職)が、「仏法を主とせよ」と題した法話をを行い、熊谷宗恵・宗務総長の挨拶で法要を終えました。

法要後、席を境内に移し、交流会を行いました。進行は、宮部渡氏(第15組西稱寺住職)が担当し、参詣者から感想や意見などを発表いただきました。

また、同寺の女性門徒らが炊き出したアツアツの「おでん」や「めはり寿司」に舌鼓を打ちながら歓談は進みました。

プルタブを集めて車椅子を寄贈

ボランティア推進会議

2005年6月21日午後1時、真宗大谷派（大谷祖廟）に大阪教区（教区ボランティア推進会議）から、車椅子2台（アルミ製・スチール製各1台）を贈呈しました。

当日は、ボランティア推進会議委員の、



矢幡光世子氏・中島典子氏のお二人が出向かれ、大谷祖廟では、杉浦財務長・寺西大谷祖廟事務所長等関係者が迎えられました。（大谷祖廟は、現在、エレベーターの設置等バリアフリー化を進めており、車椅子は必需品ということであったようです。）

この車椅子は、2年前から、年2回古着のボランティアの一環として、古切手とともに飲料水のプルタブ（アルミ製）集めを始めたことが今回の贈呈に繋がったものです。はじめはどうなることかとわからないままの出発でしたが、教区内にお知らせをしていく中で、あるご寺院では、法要や法座の都度ご門徒の方々が持ち寄ってくださったり、地域の中での取り組みになったり、友だちに声をかけたらみんなが集めてくれるようになったり、と種々いろいろあります。

集められたプルタブは、古着のボランティアと時期をあわせ、業者に買い取っていただきます。その時期によって1kgの単価は違いますが、たくさんの方の思いが、

今回の贈呈に繋がったことは間違いありません。ちなみに、この2年間で、重さにして約580kg（個数にして約200万個）でありました。一つひとつでは小さいものでありますが、集まれば大きな思いとして形になるものだと感じています。

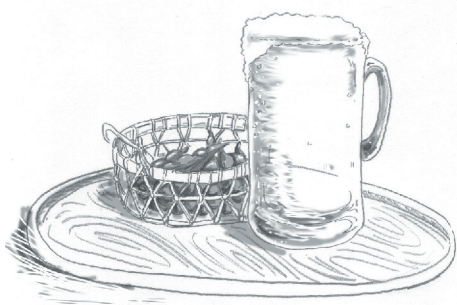
プルタブは、飲料水の飲み口にある、小さなものです。大きな缶を集めるにはいろいろ大変ですが、これなら手軽に集めていただけるのでないでしょうか。

プルタブ物語

「お寺さんがプルタブ集めてはるねん」「何のために？」「車いすに換えて寄付しはるねん」犬の散歩の途中、老人会、社交ダンスの集まり、民生委員の会合、様々な集まりで話題になりました。最初はお寺の御門徒さんだけにチラシを配って協力をお願いしていましたら、真宗の御門徒さんだけでなく他宗の方や地域の人々、果ては早朝からアルミ缶集めをしているおじさんまでが協力してくださり半年で140kgも一ヶ寺で集まりました。ひとくちに140kgとありますが個数にすると約37万枚程になります。多くの人達の日常の気づきと行動が大きなネットワークになってそれだけの

数になりました。そんなお寺が集まって、延べ3年でやっと車いす2台の寄贈が叶いました。一人ひとりの息の長いボランティアの暖かい「かたち」に感動を頂きました。それでも2年に渡るプルタブ集めに多くの方が継続して取りくみ続けている原動力のひとつは「色々なボランティアの呼びかけで手伝ってきたけど、集めたものの行き先や結果の報告がなかった。今回はちゃんと報告してくれるから知り合いにも呼びかけやすい」との声が多く聞けました。改めてお寺の存在と地域のネットワークの網の目のような底力に頭が下がる思いです。

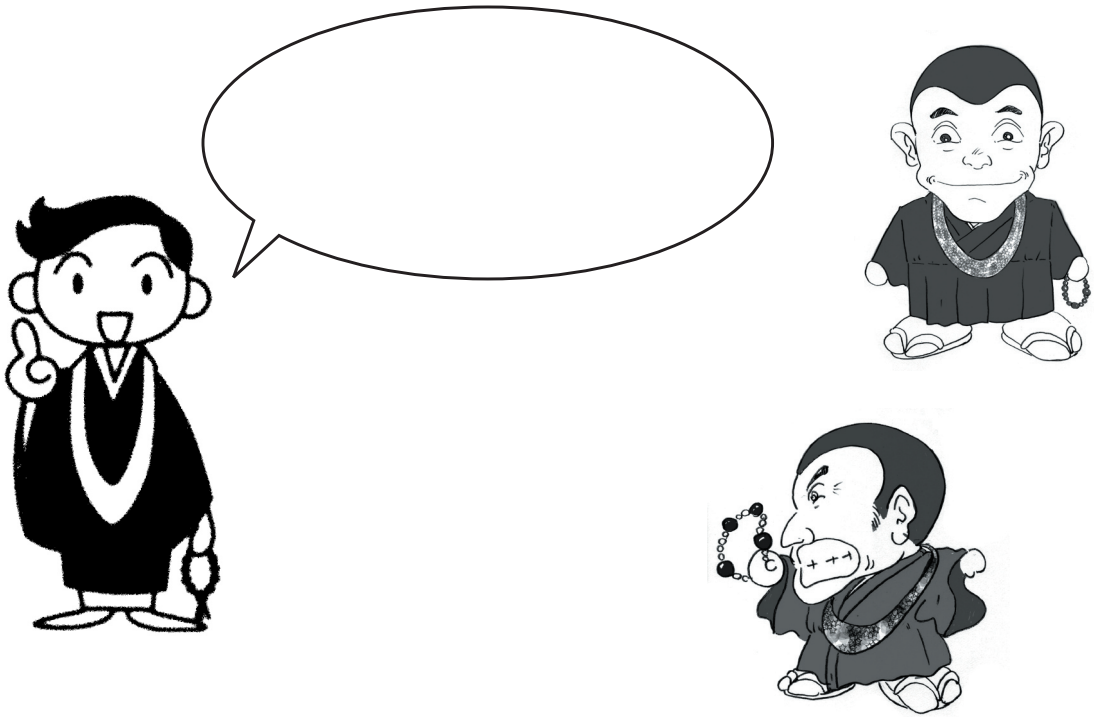
（ボランティア推進会議主査・松本曜一）



アトリエしゃらりん

画・平野圭晋

画・北川浩三



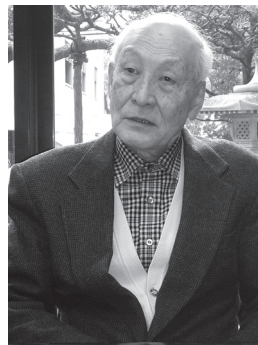
画・豊島幸代



<http://www.icho.gr.jp/shararin/sozai/>

追記

前8号の「シロの聞法見聞録④ 出演者インタビュー」の記事中、ビデオに出演のおふたりの俳優さんのプロフィールの記載が抜けておりました。改めて掲載いたします。



溝田 繁 氏

1924年大阪生まれ。関西芸術座創立メンバー。



小笠原 町子 氏

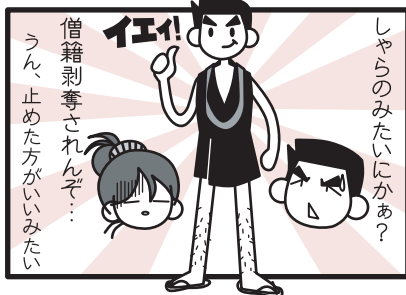
1931年大阪生まれ。関西芸術座創立メンバー。

しゃらいんちゃん

クーヒズ 編



(注)本当です



「紅まる」御堂筋店

- こだわり その① 鹿児島黒豚
その② 京野菜
その③ 創作豆腐

御堂筋を南へ、難波神社を過ぎてすぐのビルB1。広い店内は少し照明を落としてあり、面格子で仕切られたテーブル席。おいしくて健康と美容に役立つ数々の料理がモットー。まずは生ビールで乾杯。先付けは夏野菜のゼリー寄せ。おしながきから注文。



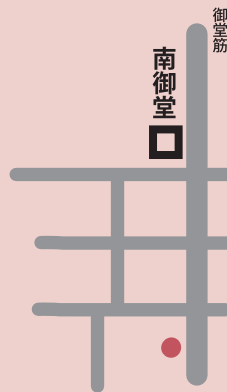
■南御堂周辺のお店紹介



京野菜と紅芯大根のシャキシャキサラダ、幻の玉子でつくるふわふわ豚平焼き、奥美濃地鶏のタタキ、味わいの豆乳コロケ、黒豚の角煮、水なす漬け。お酒類もカウンターに所狭しと並べられ充実している。

色白で着物姿が板についた女将が挨拶に。うっとり見とれる始末。

仕上げに黒豚の生姜鍋、茹であげ生ラーメンを入れて。満腹、満足。お座敷(45名、20名)、個室、テーブル席と色々なスペースが用意されている。(渡邊)



[紅まる 御堂筋店]
中央区博労町4-2-15 ヨドコウ第2ビルB1
06-6244-1611
営業時間 ●ディナー 17:00~24:00
定休日●日・祝日

発行日：2005年8月1日
発行所：真宗大谷派大阪教務所
大阪市中央区久太郎町4-1-11
06-6251-4720
発行人：比良正士
編集： 第4組 常樂寺・久世見証
第12組 清澤寺・澤田 見
第12組 乗雲寺・渡邊延江
第17組 法観寺・廣瀬 俊
第27組 真善寺・松林俊明
イラスト：第9組 看景寺・豊島幸代
第10組 是三寺・北川浩三
第27組 願隨寺・平野圭晋

<http://www.icho.gr.jp/shararin/>

編集後記

◆今回、編集後記を書くことになり、例によってパソコンに向かいました。◆この頃では「文章を書く」とは実際に「書く」のではなくキーボードをたたくことになりました。パソコンで文章を考える場合、思いついたことをどんどん打ち込んでいって、後で整理しながら文章として完成させる、という方法が、多いのではないかと思います。紙に鉛筆で書く場合に比べて、要領よく作業が進みますし、やり直しも簡単にできます。◆でも便利になった分、一つ一つの言葉を十分に考えないで使っていると思うことがあります。何度でもやり直せる、手間もかからないという便利さがそうさせているのだと思います。◆私たちは、ともすれば安易な道に流されがちです。一度手に入れた便利さはお手放せなくなってしまうですが、時には少し立ち止まって、本当に必要なものは何かを考へることも大切ではないかと思えます。(K)